

日本臨床検査自動化学会 科学技術委員会
2019 年度第 1 回委員会議事録

1. 日時：平成 31 年 4 月 26 日（金）16:30～18:03
2. 場所：ホテルライフオート札幌 4F クラーク
（日本臨床検査自動化学会第 33 回春季セミナー）
3. 出席者（敬称略）：藤本、大久保、池田、白井、三村、山舘、神山、外園、清宮、
田中、谷本、篠原、柏木、高笠（代理：新井）、御子柴、金沢、
青柳、沼田、山本裕、和田、菊地、関田、山口、川崎、汐谷、
末吉、山内、緒方、春田、澤部
欠席者（敬称略）：山本慶、村本、河口、松原、浅田、高崎、山下、桑、大澤、
細萱、片岡
4. 配布資料：
資料 1：第 19 回科学技術セミナー参加者数
資料 2：第 19 回科学技術セミナーアンケート結果
資料 3：第 19 回科学技術セミナーコメント
資料 4：平成 30 年度第 2 回科学技術委員会議事録
資料 5：平成 31 年度科学技術委員会委員名簿
資料 6：科学技術委員会技術マニュアル・既刊と提案
資料 7：平成 31 年度科学技術委員会活動計画案
資料 8：第 20 回科学技術セミナー企画案
資料 9：第 17 集マニュアル（いまさら聞けないポイント）目次

5. 議事：

議事に先立ち、池田前委員長より委員長交代に関する説明があった。技術委員会の委員長任期は自動化学会の規程（細則）に定められており、1 期 2 年・2 期まで（計 4 年）の任期に達したために交代が必要であることと、4 年間の委員会運営への協力に対する謝意の言葉があった。委員長は学会の理事長指名となっており、新委員長として藤本先生が就任することが報告された。その後、藤本委員長の挨拶・自己紹介があった。

1) 報告事項

(1) 第 19 回科学技術委員会技術セミナー報告

昨年の神戸での大会時（10 月 11 日）に開催された第 19 回科学技術セミナーについて、参加者数、参加者の属性、セミナーに対する評価、コメント等の報告があった（資料 1～3）。408 名の過去最高の参加者数を得て非常に盛況であったが、セミナーへの評

価・コメントもおおむね好評であった。例年に比べて 20 代の参加者が多く、セミナーのテーマによる影響だと思われた。

2) 審議事項

(1) 平成 30 年度第 2 回委員会議事録の承認

前回の委員会議事録案を各委員にメール配信した際には参加者数を 414 名(暫定数)と記載したが、その後の精査で重複受付などにより最終確定数が 408 名となったことが事務局より報告された。参加者数を変更して議事録として確定することとなった。(資料 4)。

(2) 平成 31 年度科学技術委員会委員について

資料 5 に基づいて今年度の委員について説明があった。今年度より幹事の先生方を 7 名増員し、計 10 名とした(メール審議にて承認済み、池田先生は本会議にて承認)。また、岡田元先生(安城更生病院)と藤田孝先生(藤田医科大学病院)に新規委員として参加していただくこと、および、松本祐之先生(中部大学)と大竹和彦先生(LSI メディエンス)が退任されることが承認された。

(3) 第 20 回科学技術委員会技術セミナー企画について

資料 7 および 8 に基づいて、横浜での大会時に開催される今年度のセミナー企画案の説明があった。テーマは「いまさら聞けない臨床化学・免疫化学のポイント第 2 弾」として実施したい。発表内容および演者について審議した結果、タイトル(案)および演者(敬称略)を以下の通り決定した。

司会・進行

藤本一満(倉敷芸術科学大学)、神山清志(浦和医師会メディカルセンター)

① ピットフォールの原因と対策 —機器、検量、試料—

山本裕之(大阪赤十字病院)

② 遠心方法と遠心後の異常および対策について —機器、試料—

和田 哲(和歌山県立医科大学附属病院)

③ 精度管理、機器間差について —精度管理、機器—

山内 恵(琉球大学医学部附属病院)

④ 血清情報について —共存物質、機器—

谷本和仁(富士フイルム和光純薬株式会社)

(4) 第 18 集マニュアル企画について

資料 6 および 7 を基に、既刊のマニュアルテーマなども踏まえて議論した結果、「反

応タイムコース」をテーマとして取り上げ、その基本的な見方や活用事例、異常反応に対する対応方法、タイムコースを活用したデータ管理等に関するマニュアルとすることに決定した。執筆者に関しては、総論を藤本先生が担当し、機器メーカー4社にも自社製品に関する記述をお願いする。その他の執筆者については、学会抄録等も参考に今後考える。詳細について議論する時間的余裕が無いことから、その他の事項についてはメール審議とする。発刊期日は今年の12月を目標とするが、遅くとも今年度内の予算執行には間に合わせる。スケジュールの関係もあるので、今回は事例集を中心としたい。

また、精度管理に関して総論や理論に主眼を置いたものではなく、現場に即した実践的に使用できる精度管理方法のマニュアルの作成についても提案があったが、正解を提示するのは困難でありリスクも伴うことから、他の関連団体も含めてプロジェクト化し、広く意見を聞きつつ十分に時間をかけて実施することが望ましいとの意見があった。

(5) 今後の委員会活動について

本日の委員長会議にて第51回大会プログラムが提示され、委員会は10月3日(木)12:30~14:00、技術セミナーは同日の15:00~17:30で開催される。

次回の春季セミナーは令和2年4月5日(日)に沖縄で実施されるが、例年と異なり日曜日開催となることから、委員会も前日の土曜日に実施される。また、委員長の都合により開始時間が今年よりも早まる予定である。さらに、2021年から大会の開催曜日が、金・土・日へと変更されることが報告された。

(6) その他

毎年、セミナーの受付時に混乱が生じているので(場所が分からない、他のセミナーと間違える等)、改善策に関する要望を学会事務局に提出することになった。

(記録：澤部)